

TOSHIBA

Leading Innovation >>>

RECAIUS™ 音声書き起こしエディタ 書き起こしをスムーズに行うための 上手な録音の仕方

東芝デジタルソリューションズ株式会社
2018年2月



1. はじめに

会話の録音を上手に行うことで、音声を正しく文字変換する精度が高くなり、書き起こし作業をスムーズに行うことができます。

本書は、音声の上手な録音方法について、録音機器や話し方、録音環境などさまざまな観点からご説明いたします。

2. 話し方の基本

音声のテキスト化の精度を高めるには、**滑舌よく喋る**ことが重要ですが、そのほか以下の点に注意して録音するようにしましょう。

2. 1. マイクの位置

話す際に、息を吹いたときの風音が録音されない位置に装着・設置します。ハンドマイクの場合は、口元とマイクの距離が一定（10～15センチ程度）になるようにお話しください。

スマートフォン内蔵マイク、ICレコーダ内蔵のマイクをご利用される場合も、口元に近い位置に設置し、机の振動、資料をめくる音などが録音されないよう注意してください。

2. 2. 話す速さ

一つ一つの言葉をはっきり録音させようと、ゆっくり話す必要はありません。逆に音声の認識精度が悪くなります。人が聞き取ることができる速度で話すようにしましょう。

2. 3. 会話の重なり

会話が弾むと発言が重なりがちになりますが、複数の話者が重なった場合は、音声を認識することができません。一人ずつ発言するように心がけましょう。

3. 録音環境

録音する部屋の環境によって、音声のテキスト化の精度に影響がある場合があります。以下の点に注意し、環境の改善を心がけましょう。

3. 1. 環境音

人がうるさいと感じない程度の環境音については、音声認識精度への殆どありませんが、人の声やBGMなど音楽が流れていると、音声認識の妨げとなります。喫茶店等でのインタビューは避けるようにしてください。

3. 2. 残響

広い部屋や硬い壁で覆われた部屋での収録は、残響も収録される可能性が有ります。残響は音声認識の妨げとなります。なるべく残響の少ない部屋を選ぶか、指向性の高いマイクで残響が収録されないよう注意しましょう。

4. マイク

書き起こしの音声認識にもっとも影響するのがマイクです。本節では、どのようなマイクが録音に適しているかをご紹介します。マイク全般としては、ある方向からの音のみ集音する**指向性**のマイクを推奨します。

4. 1. ヘッドセットマイク、ハンドマイク（推奨）

雑音や他の人の喋り声が入りにくいヘッドセットマイク、ハンドマイクが推奨です。マイクにスポンジ状のキャップ（マイク風防）があるものがお勧めです。



4. 2. ピンマイク、卓上マイク（利用可）

ピンマイク、および卓上マイクについても、マイク風防があるものがお勧めです。



4. 3. スマートフォン内蔵マイク（利用可）※注意事項あり

机の上に置いて録音するケースが多いですが、通常のマイクと同様、口元に近い位置に設置して録音してください。



4. 4. ICLレコーダ内蔵マイク・PC内蔵マイク（利用可）※注意事項あり

一般に、ご利用いただいているICレコーダ・PCの内蔵マイクは、多くの音を万遍なく集音するように作られているため、録音環境に影響される可能性があります。3章で説明した環境音、残響に注意して、机の上に置かず、口元に近い位置に設置して録音してください。



4. 5. 会議用スピーカーマイク・バウンダリーマイク（非推奨）

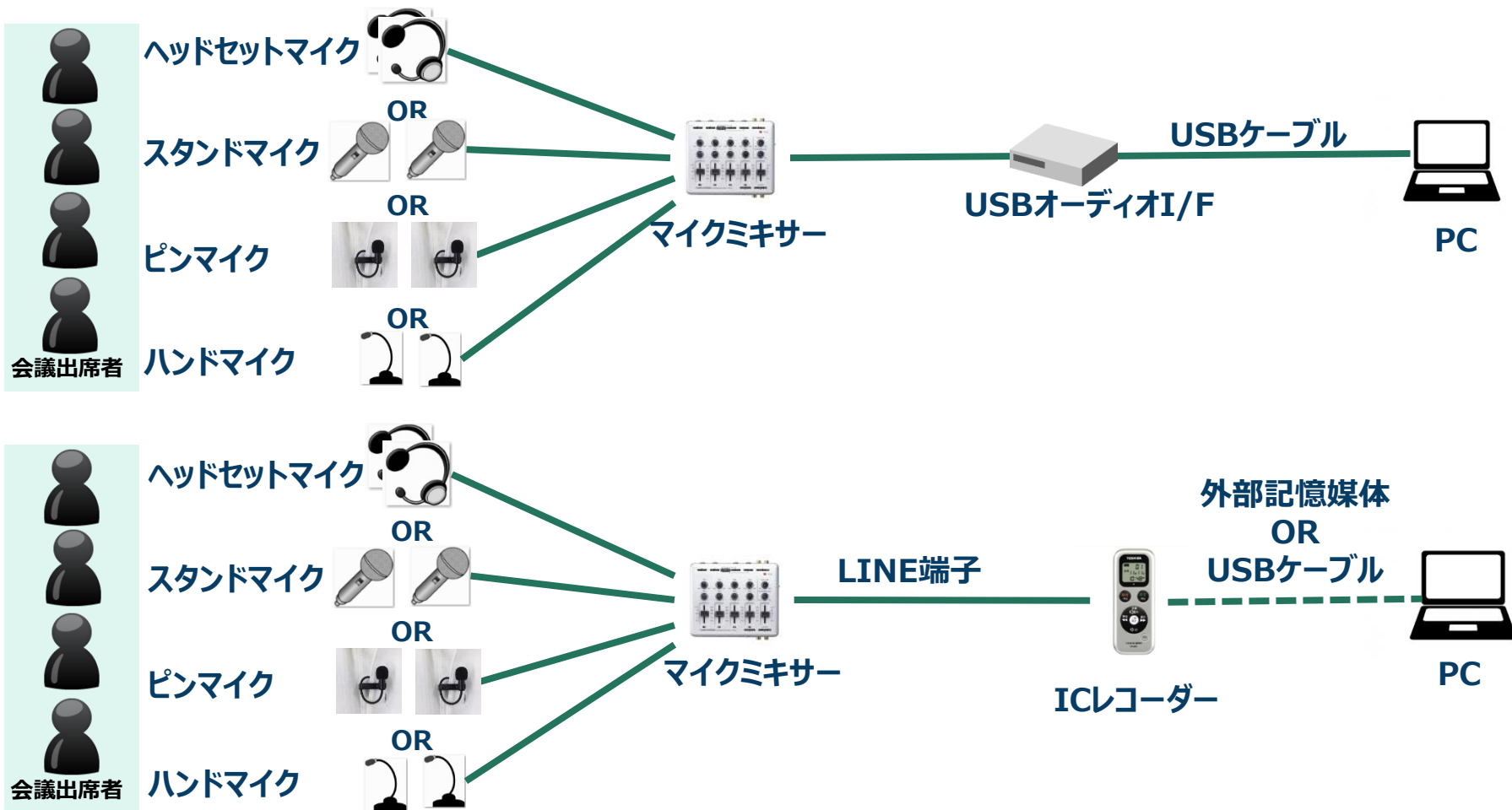
ICレコーダ・PCの内蔵マイク同様に、会議用スピーカーマイクや、会議システムに付属しているバウンダリーマイクは、**無指向性**マイクであるため推奨しません。



5. 利用シーンごとの推奨構成

5.1. 会議

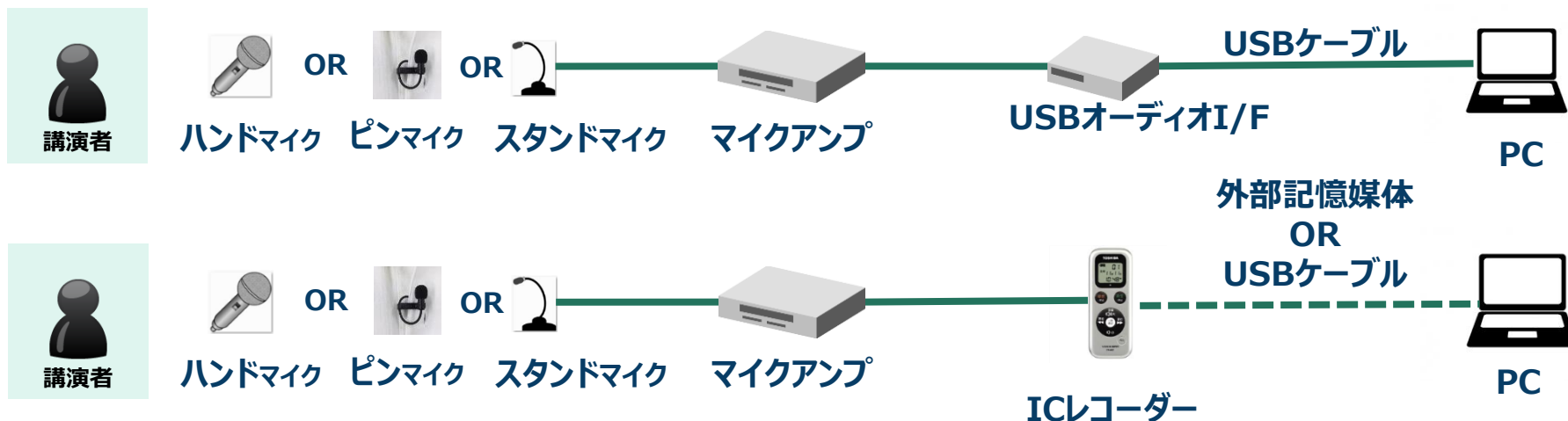
発言者一人ひとりにマイクを装着し、マイクミキサーで集音します。USBオーディオI/Fを利用してPCに音声データを取り込むと音質の劣化を軽減することができます。



5. 利用シーンごとの推奨構成

5.2. 講演・講義

講演、講義者にマイクを装着・設置し、マイクアンプからICレコーダ、またはPCに音声データを取り込みます。



5.3. インタビュー

小規模な講演やインタビューなど簡易な収録の場合でも、指向性のマイクを利用して録音しましょう。



TOSHIBA

Leading Innovation >>>